



看取り = 畳の上で最期を迎えたい =

マックスとよさと  
高橋 ひとみ

○ **紹介元** …… 包括支援センター

○ **内 容** …… 10年前にがん発症

片足膝下から切断

転移ありB病院にて手術。

A医大紹介され通院治療行うが、痛みが強くなり、  
ペインコントロールが必要とB病院を紹介される。

B病院から麻薬処方あるが、便秘になると服薬して  
いない状況

病状も急激に進行している為、至急での対応依頼

## ○利用者、家族紹介

- ・女性
- ・利用者、夫、息子と三人の生活
- ・娘は結婚しているが、平日は帰省している。

### 利用者の思い

病気の事は説明を受けている。出来る限り家にいたい。娘が帰って来て見てくれるので、知らん人にはあまり来てほしくない。車いすを用意してくれたら、トイレにも行ける。

### 家族の思い

夫、息子 痛みがあり、動かすのも怖い

本人の思うようにしてやりたい

娘 食事の量も減り、痛みも強い

トイレで用足しをしたいと思っているので出来るように考えて欲しい。

A医大で受けていた治療を続けたい

3

## ○アセスメント

利用者の状態が不明確、

また現在の状態を家族が十分に理解されていない

B病院、主治医、緩和ケア認定看護師より説明はあるが、十分な理解が難しく、娘が一番理解されている



- ・利用者の受診は身体的な負担大きく往診可能なかかりつけ医の依頼
- ・定期的な医学管理や、利用者・家族の思いを傾聴し専門職の観点からの助言やケアの実施
- 緊急時対応可能な訪問看護の利用

4

布団に休んでいるため、移動の際の負担が大きく、体交が十分出来ないため、褥瘡形成の危険性が高い  
トイレに行く動きの中でも負担が大きい  
介護する上での家族の負担が大きい



環境を整える(ベット、車椅子のレンタル)  
ベットから車椅子への移乗動作の確認  
トイレまでの動線の確認

5

### 介護力の問題

「最後まで家にいたい」利用者の思いが強く、家族も「出来るだけ、母の思うようにしてあげたい」と、在宅で最後をという思い強い。  
今後の起こりえる状態から、家族だけで支えていく事は難しいと考えられる。  
利用者・家族共に、知らない人に来てもらって看てもらうのは…



着替え、清拭、オムツ交換など、1日1回でも家族の負担を軽減する為に、訪問介護の利用  
(利用開始となるが、娘より頻回に帰省するので、断りがある)

6

## ○経過

食事が減っている。何か栄養のある良い物は無いか(夫)  
訪問看護より現在の状態を説明し、栄養にこだわらず  
食べたい物を食べてもらっていいこと、食べやすいものを説  
明、B病院に家族診を依頼(点滴処方あり、訪問看護師)  
眠っている事が多くなり不安、急速に悪くなった感じがする。  
何かあったら心配なので、以前言ってくれていた往診出来る先生  
をお願いしたい(息子)  
往診に関しての流れを説明、C開業医より往診が開始となる  
訪問看護師より、皮膚に発赤あり、褥瘡形成の危険性が大と連絡  
福祉用具事業所に連絡、エアーマット利用開始  
嘔気が強く、経口的に何も入っていない状態  
点滴を行うが嘔気強く、腹痛あり  
C開業医往診し脱水強く、入院勧められる  
介護タクシーでB病院に搬送、入院となる  
早めの退院を考えているので、退院時の介護タクシーの依頼(娘)  
利用者より「入院して少し楽になった。昼食も少し食べられた」

7

## 娘より連絡

主治医より麻薬を使用しなくても、徐々に傾眠状態になって最期を  
迎える状況になりつつあり、「自宅での最期を希望されるのであれば、  
退院可能」の説明がある。

「『自宅に帰りたい』と母の思いが強く、連れて帰りたい、帰る準  
備をして欲しい。」

B病院、訪問看護師と訪問

娘、訪問看護師と共に主治医、緩和ケア認定看護師、  
皮膚排泄ケア認定看護師より状態の説明と処置について  
説明を受ける

退院(4日間入院)

利用者より、「娘に伝えておきたい事」など、やっておきたい事を話  
される

「布団で寝たい」と希望ある

ベットを片付け、畳の上で休んで頂く

自宅にて永眠

8

## ○まとめ

病院の先生や看護師、また地域の開業医、訪問看護、福祉用具事業所、介護タクシーなど色々な方々の連携で「自宅で最期を迎えたい」と利用者の思いを叶える事が出来ました。

このことは、家族の強い思いと、それを支えて下さった色々なパワーだと思います。

ご清聴ありがとうございました